

1 競技フィールドについて

Q.1— ロボット以外であれば、フェンス・ツーバイフォー材にぶつかってもよいのか。

A — ロボットかどうかに関わらず強い衝撃を与えるのは不可である

Q.2— スタートゾーンから投擲してもよいのか。

A — ルールブックでは禁止されていないので、可能である。

Q.3— ルールブックにおける上空の定義は何か。

A — NHK ロボコンに準ずる。当該領域の境界線を鉛直方向に伸ばした面内を上空とする。鉛直方向は日本国領空範囲内で認められるが、一般的な体育館の天井に遮られているので注意すること。

Q.4— モルックまでの距離が 3.5 m では距離が厳しいのではないか。

A — 同様の意見が多数あれば変更を検討する。そのままの予定だが変更される可能性がある。

Q.5— ロボットが自チームエリアから完全に出て緑ゾーンに侵入して行動することは可能か。

A — ルールブック「2. 競技フィールド」を参照すること

Q.6— 装填ゾーンの場所はどこか。

A — ルールブック「2. 競技フィールド」及び「3. 競技ルール」を参照すること。

2 競技ルールについて

Q.1— 投げたモルック以外に起因してスキttlが倒れた時の扱いはどうなるのか。

A — 人が当たった場合であればその場で立て直す。投擲時間以外に倒れたスキttlについても同様の扱いとし、点数へは影響しない。

Q.2— 自然災害等が原因でスキttlが倒れた時の扱いはどうなるのか。

A — スキttlが倒れるような自然災害が起きた場合は、速やかに避難すること。

Q.3— セッティングタイム前のモルックの位置はどこか。

A — スタートゾーンわきのフィールド外に置いておくこと。装填はセッティングタイム中またはスタート後に行い、事前の装填は認めない。

Q.4— スキttl同士が接触して完全に倒れていないときの扱いはどうなるのか。また、倒れたの定義は何か。

A — スキttl 1 本のみで自立していない場合は「倒れた」とみなす。

Q.5— 青ゾーンのタグは、スタート後 45 秒以内にリトライを宣告することができるのか。

A — ロボットが動いていないので、何も「リトライ」することはないと思われる。セッティングやリトライに関することはルールブック「3. 競技ルール」を参照すること。

Q.6— セッティングタイム中にセッティングが終わらなかった場合はどうするのか。

A — スタート後(青ゾーンは 45 秒後)に、セッティングを再開すること。また、1 分間でセッティングが終わらないようなロボットの製作は推奨しない。

Q.7— ロボットに触れない場合はスタートゾーンに戻さなくてもよいのか。

A — 自力でスタートゾーンに戻れるのであれば、リトライにはならない。

Q.8— モルックをロボットにセットした状態でスタートゾーンに運んでよいのか。

A — ルールブック「3. 競技ルール」を参照のこと。

Q.9— セッティングタイムにテストランが含まれるのか。

A — テストランは前日に行い、セッティングタイム中は移動を含む動作の確認を行える。

Q.10— スキttl立て直す人員は誰なのか。また、選手が立て直してもいいのか。

A — 審判などの運営が立て直す。選手はスキttlに触れることはできない。

Q.11— スキttlが場外に出た場合、スキttlはどうするのか。

A — 場外へ出たおおよその地点の壁から 10 cm 内側の位置に配置する。スキttlが壁際 10 cm 以内に入った場合も同様の扱いとする。

Q.12— モルックを1ターンに2個以上投げた場合、どちらのモルックが得点になるのか。また、その場合失格や反則行為に当てはまるのか。

A — 1ターンに一つのモルックしか投擲できない。

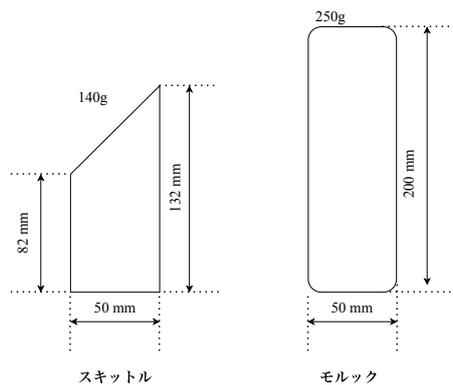
3 競技に使用する用具について

Q.1— スキットルは破壊されたらどうなるのか。

A — フィールドの破壊と同じ扱いとなる。

Q.2— TACTIC 社のモルックミニセットに含まれるモルックの寸法を教えてください。

A — こちらの測定結果は図のようになる。実際の寸法は実物を確認すること。



Q.3— 作成するモルックの個数に指定はあるか。

A — 指定は設けないが、メンバーが持ち込めないほど大量のモルックを製作してはならない。また、1ターンの投擲では一つのモルックしか投げられない。

Q.4— 自作するモルックの中に液体を入れてもよいのか。

A — 可能だが、液体が外に漏れた場合はフィールド汚染で反則となるため、注意すること。

Q.5— 投げたモルックは回収しなくても構わないか。

A — 審判がフィールド外に出す。

Q.6— モルックにキャスターなどの取り付けは可能か。

A — 不可能。モルックの変形や展開も認められない。

Q.7— モルックに取り付けることができない動力源の指定はあるのか。

A — モルックにアクチュエータを搭載することはできない。また、ゴムやバネなどのエネルギーを蓄積するあらゆる動力を禁止する。

Q.8— モルックのサイズ制限に、審判が取り付けの緩衝材は含まれるのか。

A — 含まれない。緩衝材を付けなければならないような形状のモルックが製作されないことを祈る。

Q.9— 投げる動作に影響がある場合、緩衝材の取り付けを断ることができるか。

A — フィールド破壊の可能性がある場合は、断れない。

Q.10— 投擲したモルックとロボットを何らかの手段でつなげていてもいいのか。

A — 不可能とする。また、モルックが分離することも認めない。

Q.11— モルックに穴をあけるのは可能か。

A — 提供されたモルックに穴を開けることは認めない。自作のモルックの場合は、制限の範囲内で認める。

Q.12— 投擲の定義は「モルックが緑ゾーンに着地すること」か。

A — ルールブック「4. 競技に使用する用具」を参照すること。

Q.13— 自作するモルックの材質についての指定と制限はあるのか。

A — ルールブック「4. 競技に使用する用具」を参照すること。

4 ロボットについて

Q.1— スタート時のロボットサイズは、500 mm × 500 mm × 500 mm と指定されるのか？

A — ルールブック「5. ロボット」を参照すること。

Q.2— ロボットに台数制限が設けられないことがないのか。

A — 各チーム 1 台である。

Q.3— レーザーポインタをロボットに取り付けることは可能か。

A — NHK ロボコン 2021 のルールに準ずる。

Q.4— 流せる電流量に制限はあるか。

A — ない。ただし、電圧は定常的に直流 24 V とする。過渡的にはこの限りではない。

Q.5— 移動機構が存在しなくてもよいのか。

A — 構わない。

Q.6— エアタンクとしてペットボトルを使用することは可能か。

A — 可能である。安全には十分に注意すること。

Q.7— 試合にかかわりのないチームが、動作確認などで試合中に無線通信をしてもよいのか。

A — 構わない。ただし、混信の可能性がある場合は、会場で調整する。

Q.8— ルールブックには“爆発物、高圧ガス等の検危険なエネルギー源“を不可としているが、コイルガンは電気をエネルギー源にしている。この場合、電気エネルギーは“危険なエネルギー源“に相当するのか。また、ルールブックには“電源電圧 24V まで“とあるが昇圧回路を用いることは可能か。

A — 可能とする。ただし、安全には十分に配慮すること。フィールド外に投擲物がでた場合やスキットルの破壊は反則となるので注意すること。

5 合体について

Q.1— 自チームのスキットルの立て直しの時間にロボットを合体させてもいいのか。

A — 1 ターン目が終了後は各チームは自由に投擲以外の行動をすることができる。ただし、1 ターン目は各チームの持ち時間 (30 秒) の間のみ行動することができる。

Q.2— 投擲の時間内に合体の時間も含めなければならないのか。

A — 投擲の時間内に合体しなければならない。ただし、1 ターン目終了後はこの限りではない。

Q.3— 1 ターンごとに合体しなおす必要はあるのか。

A — 合体は解除することもできるが、合体したままでも構わない。

6 のぼりについて

Q.1— のぼりを取り付けない状態で試合に臨むことは可能か。また、取り付けの義務はあるか。

A — ルールブック「7. のぼり」を参照すること。

7 反則・失格行為について

Q.1— スキットルに当たったモルックがフィールド外に出てしまった場合、または人に当たってしまった場合には反則となってしまうのか。

A — スキットルに当たったモルックがフィールド外にでた場合は反則・失格にはならない。ただし、一度もスキットルに当たっていないモルックがフィールド外にでた場合は反則となる。詳しくはルールブック「8. 反則、失格行為」を参照すること。

Q.2— スタートゾーンにロボットを戻す際、フィールド外の上空にロボットが侵入した場合は反則になるのか。

A — ならない。なるわけがない。

Q.3— フィールド汚染の基準は何か。

A — NHK ロボコンに準ずる。例として、濡らす、粉をまく、色を付けるなど。

Q.4— 相手ゾーン上空にロボットが侵入した場合、失格となるか。

A — ルールブックで定められた行動可能エリアを超えているため、反則となる。

8 オンライン開催について

Q.1— オンライン開催時のフィールド作成は、各高専で行うのか。また、そのときの材質制限などはあるか。

A — 各高専で行う。床はロンリウム、フェンスは木製である。詳細は、オンライン開催になった場合に公開する。

Q.2— いつ頃に開催方法が確定するのか。

A — 12月末を目標にしているが、変動の恐れがある。

9 その他

Q.1— 事情があり当日急に参加できなくなった場合はどうすればよいか。

A — できるだけ事前に連絡する。キャンセル料（宿泊費等）が発生する可能性がある。詳細は各校の運営へ確認すること。

Q.2— チームの補助としてチーム外のメンバーが付き添うのは可能か。(教員の付き添いとは別)

A — メンバーリストに登録されたもの以外は不可能である。感染症対策のため参加者は必要最低限に抑えること。